

治療効果のある薬剤を利用した リンゴモニリア病の効果的な防除法

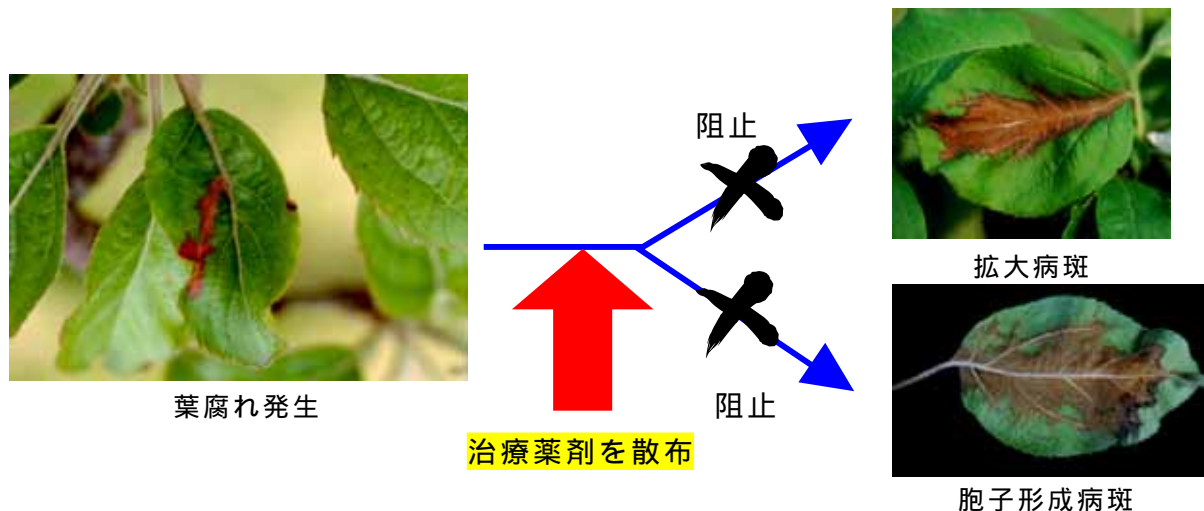
研究のねらい

リンゴモニリア病の葉腐れに対して治療効果のある薬剤を利用した，新しい防除体系を確立する。

研究の成果

ユニックス顆粒水和剤 1,000倍及びペフラン液剤 1,000倍は予防効果のみならず，治療効果も併せ持つことから，芽出し当時から芽出し10日後の間が不順天候で，モニリア病の多発が懸念される場合，芽出し10日後にこれらの薬剤を散布すると，効果的な防除ができる。

E B I 剤のアンビルフロアブル 1,000倍はモニリア病の葉腐れに対してトップジンM水和剤 1,000倍と同等の治療効果があることから，葉腐れの発生が多い園地では開花直前に本剤を散布することで，モニリア病と黒星病の同時防除ができる。



第1図 治療薬剤の具体的な効果

発表資料

1. 赤平知也ら (2001). リンゴモニリア病に対するシプロジニル顆粒水和剤の防除効果. 東北農業研究 54 (投稿中).
2. 新谷潤一ら (1997). リンゴモニリア病に対するヘキサコナゾール水和剤の治療効果. 東北農業研究 50: 157 - 158.
3. 病虫肥料部 (1995). リンゴモニリア病に対するイミノクタジン酢酸塩液剤 (ペフラン液剤) の治療効果. 平成7年度指導奨励事項・指導参考資料: 118 - 119.
4. 病虫肥料部 (2001). リンゴモニリア病防除剤「シプロジニル剤 (ユニックス顆粒水和剤)」の利用上の注意. 平成13年度指導奨励事項・指導参考資料: 78 - 79.

